

【参考】

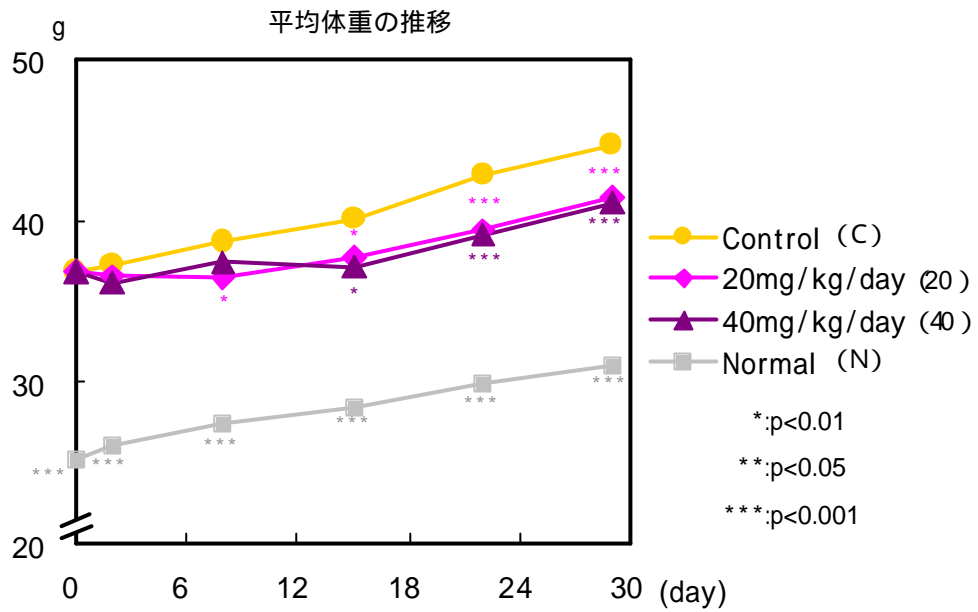


図1 肥満マウスの体重増加に対する黒大豆アントシアニンの作用

一般的なマウス (Normal) に対して KKAY マウス (Control) は体重の増加が著しい。このマウスに黒大豆種皮抽出物を混ぜた餌を与えると、肥満に伴う体重の増加が抑制された。

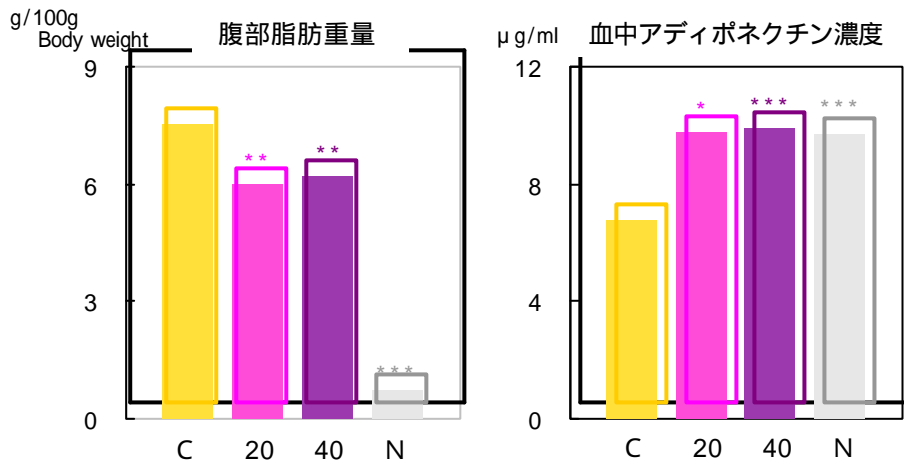


図2 腹部脂肪の重量および血中アディポネクチン濃度

KKAY マウスでは一定体重当たりの腹部脂肪の重量が高値を示し、脂肪細胞の肥大によって分泌異常が生じるアディポネクチンの血中濃度が低値を示した。これに対し、黒大豆アントシアニン分画投与群ではこれらの異常を有意に改善した。

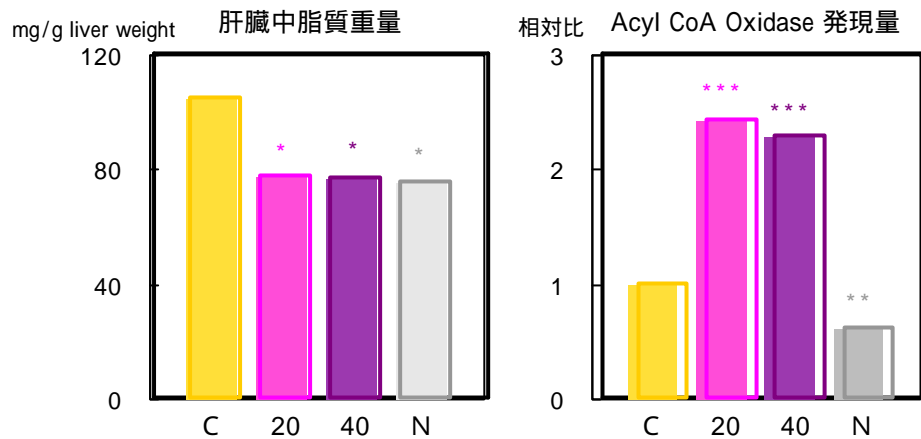


図3 肝臓中の脂質重量および脂肪酸の酸化関連酵素の遺伝子発現量

KKAY マウスでは肝臓組織中の脂質含量が多い。黒大豆アントシアニン分画投与群では脂肪量が抑制され、この時、肝細胞では脂肪酸の酸化に関連する Acyl CoA Oxidase の発現誘導が認められた。

フジッコではこの黒大豆アントシアニンを効率よく摂取可能にするため、黒大豆原穀の種皮より独自の製法を用いて抽出、濃縮したシアニジン-3-グルコシド含有粉末エキス『クロノケア』の素材開発に成功し、販売を開始致します。

